

ガザにおける市民・子どもの無差別殺戮に抗議し、即時停戦を求めます

2024年1月20日

民主教育研究所運営委員会

2023年10月7日にイスラム組織ハマスがイスラエル市民への無差別攻撃を行い、その報復として、イスラエルはパレスチナのガザ地区で大規模殺戮を展開し、さらにその規模を拡大しています。ガザ地区の封鎖によってライフラインの供給も絶たれ、死者は12月なかばに20,000人を超えていますが、その4割強は子どもです。国際法違反のハマスの行為が許されないのはもちろんですが、イスラエルの行為は、パレスチナの人々を根絶やしにしかねないジェノサイドであり、自衛権の範囲を遙かに超えています。

学校や病院をも攻撃する非道だけでなく、長期にわたるガザの支配と抑圧に対してもイスラエルを批判する声が世界各地で高まっています。イスラエルにおいても停戦を求める声が大きくなっています。

ウクライナでは2022年2月24日のロシアによる侵略開始から2年近く経っても終結の道筋が見えず、ウクライナへの「援助」として多くの武器が注ぎ込まれ、多くの人々が犠牲になってきました。ロシアのウクライナ侵略と、今回のイスラエルの報復ジェノサイドは、あらためて第二次世界大戦後の国際秩序の危うさを露呈しています。

国際法を蹂躪する行為を黙視することはできませんが、それらに対抗するには武力しかないとも考えています。武力による威嚇と行使を禁止した日本国憲法九条の意義が改めて注目されなければなりません。

ユニセフのアデル・ボドル中東・北アフリカ地域事務所代表は、ガザ地区が「子どもたちにとって世界で最も危険な場所だ」「子どもたちが遊び、学校に通っていた地域全体が、命のないがれきの山と化している」と述べています。

ウクライナやガザで起こっていることに報道を通して接している日本の子どもたちの中には、その事実を心に痛み、なぜ戦争が起こるのか、自分に何かできることがないかという問いも生まれています。

子どもたちの笑顔といのちを守るのが大人の役目です。新しく生まれたいのちを踏みにじるのではなく、そのいのちが育つ土壌を豊かに耕すことが教育と研究に携わる者としての責任です。「すべての子どもたちに学ぶ喜びと生きる希望を！」民主教育研究所に集う私たちは、常にこの願いを核として実践と研究を進めてきました。

私たちは、ガザにおける市民・子どもの無差別殺戮に抗議し、  
世界の多くの人々とともに、即時停戦を求めます。